



ご縁あって先月、大相撲大阪場所の千秋楽の後、千賀ノ浦部屋の祝賀パーティーに伺いました。

そう、貴景勝が栃ノ心戦に勝って10勝を決め、大関昇進を確定させたあの日です。貴景勝関は、五月人形のようにつるんと可愛い顔を紅潮させて会場に現れました。握手をしましたが、手も決して大きくはなく、テレビで見るとより小柄な印象。身長も私とそうは変わらない175センチのこと。平成ただ一人の170センチの大関です。白鷗は192センチ、栃ノ心は191センチ、逸ノ城は191センチ。実に15センチ以上の身長差。よくぞ互角に戦えるものだとますます新大関を応援したくなりました。

高身長力士と言えば、1999センチあった横綱・双羽黒こと北尾

横綱・双羽黒



体格と才能に恵まれた天才が腎臓病患う

長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪第二内科入局。1995年、兵庫尼崎市で「人々を救う」を目的に「やめどき」を掲げた総合診療クリニックを開業。著書「痛くない死に方」は、関西国際大学客員教授。

光司さんを思い出します。22歳で一度も優勝をせぬまま、横綱に昇進。しかし24歳のときにちゃんこの味付けがきつかけで親方と口論になり部屋から逃走、前代未聞の廃業劇となりました。その後プロレスに転身するも、トラブル続き。体格と才能に恵まれ、若い頃より天才と言われ続けた自分を持て余しているような青臭さを感じる人でした。

た。98年、レスラーを引退。2月10日に、千葉県内の病院で死去しました。享年55。死因は慢性心不全。詳細は報道されていませんが、腎臓病を患い、2013年から闘病生活を送っていたようです。

腎臓は、血液の老廃物を濾過(ろか)して尿とする臓器。人体の排水処理工場と言えます。様々な原因で徐々に腎機能が低下していくのが慢性腎不全で、糖尿病や高血圧の合併症として知られています。

腎機能が健康な人の15%以下になると体内の老廃物や余分な水分を排出できず、尿毒症になるため人工透析が検討されます。腎移植という方法もあります。

く、透析治療を受けられていたものと想像します。わが国の透析患者さんは、現在32万人以上います。先月、世間を騒がせた東京・福生病院の透析中止報道を受けて、いくつかのメディアから、「透析をする」と、余命はどれくらいか」と訊かれました。個人差が大きいので、「人それぞれ」としかお答えができません。何十年も生きる方もいれば、4〜5年で心臓や血管に合併症を起こして亡くなる方もいます。北尾さんも、50代と若かったのですが、透析治療の終末期、つまり多臓器不全だったと推測します。終末期に年齢は関係ないのです。食も、力士にとっては大仕事。無理やり食べ続けた結果、病気になる人も多くいます。命を賭けてでも突き進まねばならぬのが、相撲道なのでしょう。しかし時代は変わりました。新大関には、健康と勝利の両立を切に願っています。